

派遣専門家オリエンテーション資料

ギニア

Republic of Guinea

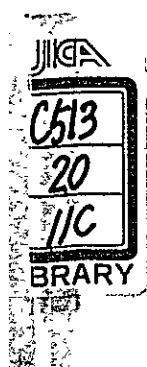
任国情報

1996年



国際協力事業団

国際協力総合研修所



はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役職員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家等JICA関係者の皆様より多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

平成8年3月
国際協力事業団
国際協力総合研修所長



1128929 {5}

目次

I 概 况	1
II 生活事情	5
1. 食 生 活	5
2. 衣 料	10
3. 住 宅	12
4. 医 療	15
5. 教 育	20
6. 家庭の使用人	22
7. 交 通事情	25
8. 通 信	30
9. マスコミ	32
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ	34
11. その他のサービス	39
12. 觀 光	40
13. 治安、緊急時の心得	42
14. 出入国手続および帰国手続	43
15. 私財の輸送、引き取り、購入	45
16. 社 交	47
17. 任国官公庁	48
18. 在外日本関係機関など	50
19. 地方都市	51

* 本文中のフランス語等のアクセント記号はすべて省略しています。

I 概　　況

表-1：ギニア概況

a) 正式国名	(和文) ギニア共和国 (英文) Republic of Guinea																								
b) 独立年月日	1958年10月2日																								
旧宗主国	フランス																								
c) 政　　体	共和制																								
d) 元首の名称	ランサン・コンテ (Lansana Conte) 大統領 (1984年4月就任)																								
e) 面　　積	24万5,857平方キロメートル																								
f) 首　　都	コナクリ																								
g) 総　人　口	627万人(1993年)																								
h) 民　族　等	マリンケ族、フーラ族、スースー族等計18部族																								
i) 公　用　語	フランス語、部族語等																								
j) 宗　　教	イスラム教、キリスト教、伝統的宗教																								
k) 曆	<p><日本との時差> -9時間 <祝祭日> (1996年) (注2)</p> <table> <tbody> <tr> <td>1月 1日</td> <td>新年</td> </tr> <tr> <td>* 2月 21日</td> <td>断食 (ラマダン) 明け大祭</td> </tr> <tr> <td>4月 8日</td> <td>イースターマンデー</td> </tr> <tr> <td>5月 1日</td> <td>メーデー</td> </tr> <tr> <td>* 7月 28日</td> <td>Mouloud, birth of Muhammad</td> </tr> <tr> <td>8月 27日</td> <td>Anniversary of Women's Revolt</td> </tr> <tr> <td>9月 28日</td> <td>Referendum Day</td> </tr> <tr> <td>10月 2日</td> <td>独立記念日</td> </tr> <tr> <td>11月 1日</td> <td>万聖節</td> </tr> <tr> <td>11月 22日</td> <td>Day of 1970 Invasion</td> </tr> <tr> <td>12月 25日</td> <td>クリスマス</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(*は毎年日が変わる祝祭日)</td> </tr> </tbody> </table>	1月 1日	新年	* 2月 21日	断食 (ラマダン) 明け大祭	4月 8日	イースターマンデー	5月 1日	メーデー	* 7月 28日	Mouloud, birth of Muhammad	8月 27日	Anniversary of Women's Revolt	9月 28日	Referendum Day	10月 2日	独立記念日	11月 1日	万聖節	11月 22日	Day of 1970 Invasion	12月 25日	クリスマス	(*は毎年日が変わる祝祭日)	
1月 1日	新年																								
* 2月 21日	断食 (ラマダン) 明け大祭																								
4月 8日	イースターマンデー																								
5月 1日	メーデー																								
* 7月 28日	Mouloud, birth of Muhammad																								
8月 27日	Anniversary of Women's Revolt																								
9月 28日	Referendum Day																								
10月 2日	独立記念日																								
11月 1日	万聖節																								
11月 22日	Day of 1970 Invasion																								
12月 25日	クリスマス																								
(*は毎年日が変わる祝祭日)																									

出所 (注1) 『ギニア共和国概要』 1990年10月 外務省

(注2) The Europa World Yearbook 1996 Europa Publications

(1) 国土の概要

西アフリカの大西洋に面し、北緯12度から7度にかけて腎臓の形をして大陸深くに入り込んでいる。北はギニア・ビサオ、セネガル、マリと南はシエラ・レオーネ、リベリアと、東は象牙海岸共和国と国境を接している。

(参考文献)

『ギニア共和国概要』 1990年10月 外務省

(2) 気候

大西洋に面した沿岸部は熱帯性気候で高温多湿である。内陸部は気温がやや低く、乾燥している。

(参考文献)

『世界年鑑』 1996 共同通信社

(3) 人口

総人口は1993年現在631万人である。人口増加率は年平均2.2%である。なお首都コナクリの人口は約525,671人である。

(参考文献)

『ギニア共和国概要』 1990年10月 外務省

The Europa World Yearbook 1996 Europa Publications

(4) 略史

表-2：ギニア略年表

年 月	出来事
15世紀	ポルトガルの交易進出。
1904年	フランス、植民地設定。
1946年	仏領西アフリカ連邦形成。
1958年	独立（ギニア共和国）セクトゥーレ大統領就任。
1978年	国名変更（ギニア人民革命共和国）。
1984年	無血軍事クーデター。ランサナ・コンテ大統領就任。 （ギニア共和国に国名変更）
1985年	トラオレ前首相によるクーデター未遂。
1990年	「国家基本法」国民投票により採択。
1992年	複数政党制導入。
1993年	大統領選挙（コンテ大統領再選）。

出所 『国情：ギニア』 1995年3月 外務省

(5) 民族等

コンテ大統領の出身部族スースー族が17%、マリンケ族が34%、フーラ族が29%、そのほかキシ族、トマ族、ゲルゼ族など全部で18の部族から構成されている。

(参考文献)

『ギニア共和国概要』 1990年10月 外務省

(6) 言語

フランス語が公用語である。ほかにマリンケ語、スースー語などの部族語が使われている。

(参考文献)

『国情：ギニア』 1995年3月 外務省

(7) 宗教

イスラム教が65%、伝統的信仰が9%、ほかに4%のキリスト教信者がいる。

(参考文献)

『ギニア共和国概要』 1990年10月 外務省

(8) 文化

90年の成人識字率は男性が35%、女性が13%である。

(参考文献)

『世界年鑑』 1996 共同通信社

(9) マス・メディア

1) 新聞

L'evenement de Guinee が独立系の月刊紙、週間紙のForoya、ほかにHonike、Journal Officiel de Guinee、L'Observateurなどがある。

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1996 Europa Publications

2) 放送

1993年のユネスコの統計によれば、270,000台のラジオと48,000台のテレビが普及している。Radiodiffusion-Television Guinéenne (RTG) ではフランス語・英語・Creole-English、ポルトガル語、アラビア語、部族語でのラジオ放送を、また、フランス語と部族語でのテレビ放送を行っている。

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

表-3：経済指標 [ギニア]

1) 主要経済指標 の推移	年	(1992)	(1993)	(1994)
		GDP (十億ギニアフラン) (注1)	2,683	3,031
	一人当たりGDP (ドル) (注2)	510	500	N.A.
	実質GDP成長率 (%) (注1)	3.0	4.7	4.0
	消費者物価上昇率 (%) (注1)	16.6	7.1	4.1
	貿易収支(百万ドル) (注3)	-91	-22	N.A.
	経常収支(百万ドル) (注1)	-232	-222	-195
	対外債務残高 (百万ドル) (注1)	2,643	2,843	3,104
	債務返済比率 (%) (注1)	11.6	11.6	14.1
	外貨準備高 (百万ドル) (注2)	N.A.	N.A.	N.A.
2) 通貨 (1996年8月9日) (注4)	通貨単位: ギニア・フラン 1ドル = 997 ギニア・フラン			
3) 会計年度	1月1日~12月31日			

出所 (注1) Country Report : Guinea, Sierra Leone, Liberia 3rd quarter 1996 EIU

(注2) World Development Report 1994、1995、1996 The World Bank

(注3) International Financial Statistics Yearbook 1995 The World Bank

(注4) 東銀リサーチインターナショナル調べ

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

ギニアは西アフリカの水瓶と呼ばれ、アフリカでも有数の雨量の多い地域である。中部の高地、山地はニジェール川、セネガル川、ガンビア川などの多くの河川の水源地となっている。

この水を使って食糧の自給をはかるべく、主食である米の生産増大が国的重要課題となっている。しかし、毎年米が国内で不足しており、大量の米が輸入されている。これによる財政の圧迫も大きく、外国からの援助にも頼っている状況である。しかし現在は耕作可能面積の25%（160万ヘクタール）にすぎず、今後の開発が大いに期待されている。

食料の市場への出回り状況は、年間を通してほぼ良好である。食料が市場よりもなることはない。コナクリ市内にはスーパーマーケットが数軒あり、ここで必要最小限のものは入手可能である。これらはヨーロッパなどからの輸入品であり価格は高い。しかし、ものによっては當時入手可能とはいがたいので、多めに購入しておく必要がある。中華製品は若干入手できるが、日本食についてはまったく不可能である。

当地の人が利用している市場にも多くの食料品が出回っており、ものによってはここを利用する方がよい。しかし、ここでの買物は、雑踏のなかでの値段の交渉をしなければならない、また強盗、盜難の危険もあり、多くの外国人には敬遠されている。

(2) 主な食料の出回り状況

米——ギニア人の主食である米は、市場からなくなることはない。しかしこれらの米には独特なにおいがあり、日本人はまったく利用していない。スーパーマーケットではアメリカ産やアジア産の米も入手可能であるが長粒米である。これらの米も保存が長くなっていることにより、においの出ているものもある。日本米（ジャポニカ）タイプのものは入手できない。

パン——当地産のフランスパンが購入できる。これは露店やスーパーマーケットで安く入手できる。また輸入品もスーパーマーケットで購入できる。

肉類——牛肉、羊肉、鶏肉、豚肉、ハム、ベーコンなどはスーパーマーケットで輸入品が購入できる。種類はあるが、あまりおいしい肉はない。一部豚肉を除けば市場でも購入できるが、衛生状態があまりよくないため、あまりすすめられない。

野菜——スーパーマーケットでは当地産の他、ヨーロッパからの輸入品も購入できる。なかには鮮度の落ちたものもあるので入荷時をみはからって購入するとよい。種類としてはあまり多くなく、かつ高価である。市場では当地産の生鮮野菜が多く販売されている。生鮮野菜は季節物であり、ときには市場よりなくなる。したがって、価格の変動は非常に大きい。全体的にタマネギ、じゃがいもは年間を通して入手可能である。生鮮野菜は市場での購入に頼らなければならない。野菜の管理状態

はあまりよくなく衛生的でないため、調理時には十分に水洗いをして、できるだけ生のまま食べないように料理を工夫する必要がある。

乳製品——スーパー・マーケットで輸入品が購入できる。牛乳はロングライフのものが輸入されている。いつも気に入ったものが買えるとは限らない。よいものは有効期限を考慮して買っておくこと。チーズなどの購入も可能である。また、市場でも販売されている。店頭に出されている間は高温にさらされ質の落ちたものがあるため、スーパー・マーケット以外での購入はすすめられない。

果物——トロピカルフルーツの種類（マンゴー、パイナップル、バナナ、グレープフルーツ、オレンジ、パパイヤなど）は多く、季節には市場の店頭に並んでいる。これらはスーパー・マーケットでも販売されている。またスーパー・マーケットでは輸入品であるリンゴ、ブドウ、イチゴ、洋ナシも販売されていることもある。当地産の果物は、市場や原産地での購入が新鮮で価格も安い。

魚類——コナクリは大西洋に面し、ギニア全体では300キロメートルの海岸線を有しているので、海産物の入手は可能である。しかし、刺し身で食べることのできるほどに鮮度が保たれたものはない。購入方法としては、レストランなどに卸している業者、スーパー・マーケット、水産会社から、また直接漁港にて可能である。購入に際し、鮮度の問題で消費者自身の選択の目が重要となってくる。主な調理可能な魚類として、タイ、ニベ、カマス、舌ビラメ、エビ、モンゴイカなどがある。そのほかに、ギニア人を対象にしたコノシロジやナマズの薰製品も売られている。

調味料——香料は、市場やスーパー・マーケットで購入できる。醤油はときどきスーパー・マーケットに出回るが、価格が非常に高い。アメリカ製醤油、中国製醤油などがある。ギニアでは日本食料品の調達はむずかしい。

食用油——オリーブ油、ピーナツ油、大豆油、なたね油などが購入できる。当地の料理には油を多く使うため、食用油は豊富にある。

酒類——ビール、ワイン、ウイスキー、リキュール類などの輸入品があり、スーパー・マーケット、酒屋などで購入できる。ギニア産のビール（SKOL）もあり、味も悪くない。なお、日本酒、バー・ボンはない。

飲料水——コナクリ市内の水道管は老朽化しており、もれや管圧不足による異物の混入などできなり濁っている。現在、水道管の取り替えなどの改善がされているところである。まだ作業を残しており、水質は悪く沸騰させなければ飲むことはできない。少し泥臭いため、お茶などにはミネラルウォーターを使用するとよい。ミネラルウォーターは市内のいたるところで販売されている。ギニア産のミネラルウォーター「Coyah」も販売されており、好評である。輸入品も入手可能である。

(3) 食料の入手

ギニア国内では、日本食料品はまれに入るしゅうゆを除き、ほとんど購入できない。したがって、一時帰国の際などに国外で揃えること。

スーパー・マーケットにはヨーロッパからの輸入食料品が入っており、洋食に関しての品物はいちおう揃っている。

市場には生鮮野菜から食料品など多数販売されているが、衛生状態がよくないため、品物によってはすすめられないものもある。しかし、スーパー・マーケットにな

いものが販売されているので、うまく使い分けるとよい。

コナクリ市内の主なスーパー・マーケットは、Super V、Super Bobo、Super AZ、Le Makity などである。市場は Marche Niger、Marche Madinah などである。市場では、通常値段は交渉により決める。

1-2 食器・調理器具など

(1) 食器・調理器具などの入手

調理器具は洋式のものであればほとんど調達できるが、良質なものはない。和食器の購入は難しい。電気製品は電気釜、ホットプレートなどは販売されていない。

(2) 日本から持参した方がよい食器・調理器具など

食器——茶わん、おわん、はし、湯飲み、急須、皿、はしおきなど、日本的なものである。

調理器具——包丁、砥石、まな板（プラスチック製）、すりばち、すりこぎ、魚のうろこ落とし、土鍋、すきやき鍋、中華鍋、ふきん、亀の子タワシ、油こし器（オイル缶）、クッキングペーパー、おろし金、巻きす、茶こし、計量器、蒸し器などである。

電気製品——電気釜、ホットプレートなどはマイコン仕様などでないものがよい。日本製品を使う場合は、変圧器（220Vから100Vへの変圧）が必要である。ギニア国内の電圧は220ボルト、50ヘルツであるが、ときとして電圧が変化して電気製品に大きなダメージを与えることがある。電気がまだ十分に供給されておらず、ところによっては通電時間が短いところがあるので、電気製品の使用には注意が必要である。したがって、電圧安定器（スタビライザー）を使うことも忘れてはならない。電圧安定器は当地で購入可能であるが、変圧器は日本から持参すること。

1-3 外食

(1) 飲食店

日本レストランはないが、他国の料理を味わえるレストランは増えてきている。予約は多人数の時以外は必要ない。服装についてはそれほどどうるさくない。食事の始まる時間は、比較的遅くなっている。日本人がよく利用するレストランは、次のとおりである。

＜中華料理＞

Wanderful

所在地：Kipe 地区

特記事項：営業時間は、火～日曜日が19:00～23:00、月曜日は休み。

＜ヴィエトナム料理＞

Delices d'Asie

所在地：RATOMA 地区

<欧洲料理>

Kapor Beach

所在地：KAPORO 地区

TEL : 46-35-85

特記事項：営業時間は火～金曜日 19:00～23:00、土・日曜日 12:00～23:00、月曜日は休み。

L'Atlantique

所在地：RATOMA 地区

TEL : 42-10-03

特記事項：営業時間は 19:00～23:00、月曜日は休み。

Les Jardins de Guinee

所在地：LANSEBONDJI 地区 日本大使館近く、Super V のそば。

特記事項：営業時間は月～土曜日 12:00～23:00、日曜日は休み。ビリヤードができる。

<フランス料理>

Le Conakry

所在地：BOULBINET 地区

TEL : 41-26-82

特記事項：営業は昼、夜で、日曜日は休み。

Residence Mariador

所在地：TAOUYAH 地区の Residence Mariador 内

TEL : 44-27-52

<インド料理>

NATRAJ

所在地：MOUSSOUDOGOU 地区

TEL : 44-49-57

特記事項：営業時間は 12:00～16:00、19:00～23:00、休みは日曜日。

TANDOOR

所在地：MINIERE 地区

特記事項：営業時間は 12:00～16:00、19:00～23:00 休みは日曜日。

<モロッコ料理>

MARRAKECH

所在地：BOULBINET 地区

特記事項：営業時間は 09:00～23:00

<ドイツ料理>

Le Rustique

所在地：MINIERE 地区

<レバノン料理>

L'Oriental

所在地：TOMBO 地区、人民公会堂隣

Le Cedre

所在地：ALMAMYAH 地区
<フランス、アフリカ料理>

Des Iles

所在地：BOULBINET 地区
特記事項：営業時間は 12:00～23:00、休みは月曜日の 18:00 以降。
<フランス、ギニア料理>

Le Rocher

所在地：SANDERVALIA 地区、Ignace Deen 病院近く。
特記事項：営業時間は毎日 12:00～23:00

(2) その他の飲食店

<軽食、カフェテリア>

L'African Queen

所在地：MANQUEPAS 地区
TEL : 44-30-71
特記事項：営業時間は 12:00～14:00、夜は要予約。

La Baraka

所在地：HAMDALAYE 地区
TEL : 42-13-03
特記事項：営業時間は 19:00～0:00、水曜日が休みである。

Le Damier

所在地：Marche Niger よこ
TEL : 44-17-08
特記事項：ミルフィーユをはじめとした各種ケーキ。営業時間は 10:00～17:00、
日曜日は休み。

La Gondole

所在地：リバブリック通り
TEL : 44-15-40
特記事項：各種アイスクリーム豊富。営業時間は 10:00～23:00。

Le MOMA

TEL : 44-20-52

La PATISSERIE CENTRALE

TEL : 44-18-42

2. 衣 料

2-1 衣 料

(1) 一般事情

コナクリ市内での生活では、ほぼ年間を通して夏服で過ごせる。12~2月は朝夕気温が下がり、かなり涼しくなる時もある。この時期に中部ギニア（Labe、Pita）などに旅行する場合は、長袖の衣類が必要である。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

男性用——下着、綿の靴下、靴、帽子、シャツ、スーツ、ネクタイ、パジャマ、ポロシャツである。

女性用——下着、靴下、靴、外出着（化織のワンピース、またはツーピース）、ふだん着（綿のワンピース、スカート、ブラウス）、ねまき、カーディガン、帽子は持参した方がよい。

子供用——赴任前に各種ひとつおり揃える方が望ましい。

(3) 任国で調達可能な衣料

綿のシャツやジーンズなどもあり、価格も比較的安く、ふだん着や作業用として十分活用できる。革靴は外国製品が入っており、デザインなどにこだわらなければ購入可能である。ただし種類が少ない。

(4) その他の留意点

配属ポストにもよるが、ワイシャツは式典および重要会議の時に着用する程度である。ふだんはスポーツシャツを着用する人がほとんどである。そのためワイシャツよりスポーツシャツの方を多く持参する方がよい。

任期期間の2年間を目安として、必要な衣料を準備しておいた方がよい。夏に赴任する人も一時帰国、健康管理旅行などで任国を離れる時期を考慮して、冬服を少し持参するとよい。

年間を通して気温が高く汗をかく量も多いので、ふだん着は良質な綿製品で吸湿性のよいものを選ぶこと。

2-2 礼 装

(1) パーティ

政府、大使館主催のパーティでは男性はスーツ、女性はフォーマルなワンピースである。このほかのパーティでは、気候の関係からも男性はワイシャツ、女性はワンピースで通用する。

(2) 式 典

男性はスーツを着用、女性はフォーマルなワンピースを着用する。

(3) その他の冠婚葬祭

主催者側にもよるが、男性はスーツを着用、女性はワンピースを着用すれば十分である。

(4) その他の留意点

式典など時間どおりに始まるることは非常にまれである。また、終わる時間もはつきりしないので、十分に余裕を持って参列しなければならない。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

ドライクリーニング店はあるが、良質なものの洗濯の依頼は避けた方がよい。したがって自分で洗濯や手入れができるものを持参しなければならない。電気洗濯機、アイロン、アイロン台は当地調達できる。

(2) 仕立て、修繕

コナクリ市内にはミシンを持った仕立屋、修繕屋が多くある。しかし、技術的には、スペシャリストと呼べる人は少ない。小型の電動ミシンを持参するとよい。入居に際してカーテンなどを作る機会も出てくる。生地の種類が多い。

(3) 保管

雨季には湿度も上がり、クーラーがないとかびが生える心配がある。休暇などで家を長期間あける時も、クーラーをつけておくなどの湿度調整が必要である。

3. 住 宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

コナクリは都市整備が進んでおらず、電気や水が常時供給されているところはない。電気は需要量に対し供給量が不足しており、常にどこかが停電している状況である。場所によっては通電時間が短いところもある。水も水道管の老朽化により、場所によっては水の出ないところがある。この問題を改善すべく、現在新しい水道管との取り替え工事が行なわれている。緊急時にかけない電話もまた、一部の地域で使用できない所もある。コナクリ市内の貸家も以前に比べ増えてはいるが、依然として選べる状況とは言い難い。貸家には、独立家屋とアパート形式のものとがある。多くの独立家屋は郊外にあり環境はよいが、市内への通勤に時間がかかる。アパート形式のものは市内に点在している。アパートのなかには家具を除き、クーラー、電気温水器、水洗トイレ、エレベーター、衛星放送視聴設備、自家発電機などを備えているところもある。これらの家賃は、1,000ドル未満から5,000ドル（家具付き）する物件まである。都市整備が遅れているため、一般的な生活レベルを得るのに大きな投資が必要である。

3-2 ホテル事情

宿泊可能なホテルは数軒しかない。日本人が利用しているホテルは、次のとおりである。なお、1993年2月22日現在、1ドル＝980ギニア・フランである。

◇ Hotel Carnayenne

TEL：41-40-89

特記事項：プール、テニスコートがある。クレジットカードの使用も可能である。

◇ Novotel

TEL：44-50-21

特記事項：現在、改築工事により閉鎖中（96年4月オープン予定）。

◇ Grand Hotel Unite

TEL：44-15-98

特記事項：料金は朝食込みで、シングルが5万9,000ギニア・フラン、ツインが7万5,000ギニア・フランである。プールがある。

◇ Mariador

TEL：46-40-70

特記事項：料金は、シングルのA（テレビ、冷蔵庫付き）が5万3,500ギニア・フラン、Bが4万8,500ギニア・フラン、ツインのAが7万200ギニア・フラン、Bが6万5,300ギニア・フランである。郊外にあり、交通の便が悪い。

◇ Residence Mariador

TEL：44-27-52

特記事項：料金は、シングルのA（海に面した部屋）が8万6,300ギニア・フラン、Bが7万9,500ギニア・フラン、ツインのAが10万5,000ギニア・フラン、

Bが9万8,000ギニア・フランである。全室テレビ、冷蔵庫付きである。プールがある。

3-3 住宅の探し方

在留邦人、配属先の上司、不動産業者にあたる。また、住宅の門やアパートの窓に借家人を求めているビルが張ってあるものもある。そのほか、月刊の情報誌「Dyeli」に案内が出ている。

3-4 住宅の選定上の留意点

電気、水、勤務先の関係でまず場所を決める。不動産会社や知人などより情報を集める。電気事情の比較的よいところは、大きい病院の近く、または町の中心部である。水も電気と同じで、そのような地域は比較的よい。特に水については低い場所がよい。圧力の関係で最後まで水が出てくるからである。

電話は、町の中心部とコナクリ市内の北部地方（昔の呼び名でコナクリⅡ）は比較的通話が良好であるが、全般的には確実な通話は期待できない。

住宅の設備としては、発電設備のついているところが望ましい。アパート形式の住宅は、自家発電装置を備えている所が多い。独立家屋は、個人的に取り付ける場合もある。発電機の有無を確かめるとよい。電気の供給のよいところでも、停電は頻繁に起きているからである。1年の半分ほどは雨季で毎日雨が降り、ときとしては風を伴った暴風雨に見舞われるため、しっかりとした造りのようにみえても、雨漏りが生じることが多い。根本的に水もれ個所を直さず内壁にペンキを塗ってごまかしている場合もある。乾季に入居する際には、天井や壁の雨漏り跡をよく点検する必要がある。さらに、雨季には再度大家立会いで点検してもらうよう、一筆入れておくのもよい。

そのほかクーラー、温水器、水道、水洗トイレなどの点検を行なう。盗難防止としてドアの鍵は交換してもらうか、新しいものを追加しておく。独立家屋の塀の壊れているところは修繕してもらう。塀の高さが2.5メートルほどあり、外から内部がのぞけないような造りがよい。これら修理や補修が必要な場合は、必ず契約前に行なわせること。いったん契約して入居してしまうと、修理に時間がかかるからである。

3-5 住宅の契約

借家契約は通常1～2年をめどに、不動産業者、または家主と直接締結する。その時に礼金、敷金をそれぞれ家賃の1ヵ月分、数ヵ月分前払いすることが一般的に必要となる。その後は毎月前払いとなる。

3-6 電気、ガス、水道などの手続と管理

電気、水道は電力会社、水道公社に出向き入居を伝えると、すでに配線、配管がしてある住居に対しては同職員により保証金が算出される。

電力会社（SOGEL）

TEL：44-18-89、44-18-70（緊急連絡時）

Fax：44-17-51

水道公社（Societe d'Exploitation des Eaux de Guinee：SEEG）

TEL：44-21-95 44-43-67

電気の場合、電球の数、その他の電気器具の数を確認して出される。この金額は約1ヶ月分の使用量に相当する。水道は管の太さで保証金が決まる。この保証金の支払いをすませると契約は完了する。なお、この金額は契約終了時には返される。請求書の発行は不規則で、電気代は2～4ヶ月の間隔で支払う。緊急の場合はメーターの数値を記録して行くと、その場で請求書を発行してくれる。

水道代は、約2ヶ月間隔で支払っている。請求書は本来手元に送られてくることになっているが、その限りでない場合が多い。定期的に当該事務所に出向き支払いを完了しなくてはならない。この支払いが滞ると請求書の有無とは関係なく一方的に止められることがあるほか、延滞料金を取られることがあるので注意が必要である。集合住宅の場合、水道のメーターが個別に設置されていないので、各世帯で家賃の割合で頭割りして支払うことになる。

新契約で電気を引き込む場合は、メーター、その他の器具の取り付け費3万ギニア・フランが必要となる。水道の場合は、枝管への接続などに機材代を含め11万5,000ギニア・フランが必要となり、それぞれ保証金とあわせて支払う。

契約時に気をつけることは、契約時のメーターの数値を記録しておき、1回目の請求書がきた時によくその数値を確かめることである。トラブルを避けるためにも、毎月決まった日に本人がメーターの数値を点検して、記録しておくとよい。

ガスはプロパンの使用となる。ガスの交換、ガス器具の購入も可能である。

3-7 その他

家賃の支払い額に対して税金がかかる。外務協力省より大蔵省に免税手続がされていればこの支払いが免除される。着任時に確認しておくこと。

4. 医療

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

黄熱病の予防接種は、入国の際必要である。コレラ（現在のところ汚染地から削除）、破傷風、A型、B型肝炎、狂犬病、風疹の予防接種も受けておくことが望ましい。

幼児に関しては、日本で行なわれているBCG、ポリオ、3種混合、はしか、おたふくかぜ、風疹、B型肝炎が必要である。接種が完了していない場合は、接種プログラムをあらかじめ立てておく必要がある。A型肝炎は幼児の場合は比較的軽くすむので、ワクチン接種は親の判断による。

(2) その他の準備

赴任直後、下痢や咽頭炎を訴える人が多い。したがって、かかりつけの医師に相談してこれらの症状に速効性のある抗生物質を処方してもらい持参するとよい。

市内にはライ病、ポリオ患者が多い。市場にはハエが多いので、消毒石けん、消毒薬なども準備した方がよい。

蚊対策として、虫よけスプレー、蚊取線香、電気蚊取マットを準備するとよい。蚊取線香、電気蚊取器、マットは当地で購入可能である。しかし、蚊取線香は中国製で効力があまりなく、電気蚊取器、マットも常時入手可能とは限らない。蚊帳は住宅事情にもよるが、邦人の間では使用されていない。抗マラリア剤ニバキン、パリュドリンは当地で購入できるので、服用をすすめる。

幼児に関しては、日本のかかりつけの医師よりかぜ薬や下痢用の薬を多めにもらい持参するとよい。当地では医師の処方せんがないと薬局で購入できない薬もあるからである。

眼鏡、コンタクトレンズは予備を準備しておく必要がある。

歯科治療は当地では機材不足により満足のいく手当てができないので、日本で十分に治療を施しておく必要がある。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

医療事情はよいとはいえない。特に乳幼児の死亡率が高く、5歳未満の子供の死亡率は1,000人に対して129人（1991年）となっている。したがって当地の平均寿命も短く、44歳（91年）である。医師の数も少なく、9,700人に対して1人（1991年）の割合となっている。その多くの医師がコナクリに集中（45%、91年）しており、地方の医師不足が深刻な問題となっている。

病気やけがをするとコナクリの各地区にある無料診断所（Dispensaire）から市内の病院に運び込まれる。これが当地での一般的な事情である。このような状況下で、日本人を含め欧米人は次のクリニックを利用している。

<クリニック>

Dr. Sureau (フランス人)

所在地 : B.P.85, Taouyah Conakry II

TEL : 42-13-90

特記事項 : 診療時間は 8:30~13:00、17:00~19:00。

<フランス大使館の医局 (Centre Medico-Social) >

Dr. Morel, Dr. Eiric Farella

所在地 : 大使館内 (Boulevard du Commerce, B.P.373)

電話 : 44-16-05、44-16-55 緊急時の無線 : 149、100

特記事項 : 診療時間は 8:30~13:00、17:30~19:00、土曜日は 8:30~12:00。

日本人医師にかかる方法としては、在セネガル日本大使館の顧問医による巡回検診が年数回計画されている。また日本からの巡回医師団の制度もある。

次のような総合病院があるが利用はあまりすすめられない。

Donka

TEL : 44-19-33、44-18-74 (救急治療)

Ignace Deen

TEL : 44-20-18、44-20-53 (救急治療)、44-29-65 (救急車呼出し)

(2) 緊急時の対応と措置

緊急時にはできるだけ早く日本大使館に状況を連絡して、協力を仰ぐのが最良である。コナクリ市内で発生した場合は、フランス人医師の指示を仰ぎ、手術が必要な場合はヨーロッパへ緊急輸送する。地方で起きた場合は、コナクリまでの輸送は航空機の定期便か、またはチャーター便を手配する。または陸路での輸送となる。

当国の医療設備は十分に整っていないため、他国への移送を必要とする事態が発生した場合は、民間機にてヨーロッパに移送する。毎日 1 便出ているヨーロッパへの定期便を利用することになる。就航しているのは KLM オランダ航空 (K L)、サベナ・ベルギー航空 (S N)、エールフランス (A F) である。

またアシスタンスサービスを利用する方法もある。どちらか早く移送できる方法をとる。アシスタンスサービスを受けるには、アシスタンスカードの登録番号を確認して、当地を担当しているパリセンター [電話 : (33) -1-42854500] に連絡をとる。コレクトコール、日本語で 24 時間対応可能である。このシステムは随伴家族にも適用されているので、全員に対し緊急に対応できるよう話し合っておく必要がある。

休暇中ヨーロッパで急を要する診断、治療を希望する場合は、次の病院、クリニックを利用するとよい。

<パリ>

American Hospital of Paris (総合病院)

TEL : (1) 46-41-25-25

<ロンドン>

Dr. Tetsujiro Ihara (一般医)

TEL : 01-202-2034 (クリニック)、01-202-3305 (自宅)

<デュッセルドルフ>

Dr. Yoshikazu Ishida (外科)

TEL : 0211-66-60-63

<ローマ>

Dr. F. Perrotti (内科)

TEL : 6234102

<ブルュッセル>

Dr. Shoji Tsujimoto

TEL : 640-08-81

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

赴任前の準備の項で述べたが、そのほか家庭薬のかぜ薬、かゆみ止め、目薬（抗生素）、湿布薬、氷まくら（アイスノン）、また本人に適した常備薬は忘れずに持参したい。

(2) 任国で調達できる医薬品

日本と違い医薬分業システムのため、医師の処方せんがないと購入できないものもある。アスピリン、抗マラリア剤ニバキン、口腔消炎スプレー（抗生素入り）、消毒薬、包帯、ガーゼ、注射針、注射器などは購入できる。ときには薬局より医薬品がなくなることもあるが、注文してヨーロッパよりとり寄せることが可能である。

(3) 任国で調達できる衛生用品

生理用品（ナプキン類）、綿棒、バンドエイド、包帯、サポーター、歯ブラシなどはヨーロッパ製がスーパー・マーケットで購入できる。避妊具は薬局、スーパー・マーケットや市場で入手可能である。必要なものは、日本から持参することをすすめる。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

まず自分自身で医薬品の用法、用量を確認すること。ヨーロッパ人医師から指示される1回の服用量が日本人には多すぎる場合があるので、それに適した調整が必要である。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

器具が不備なため、異常出産などへの対応はとれない。したがって、原則的には当地での出産は不可能である。ギニア人やレバノン人のなかにはヨーロッパで出産している人もいる。妊娠後については、ドイツ人の産婦人科医がいるので、ここで出産前までの検診はできる。

Dr. Walburga Duranteau (女医)

所在地 : Kipe Pont Kakimbo (B.P.1606)

特記事項 : 診療時間は 8:30~12:00、16:00~19:00、土曜日は予約が必要。

余裕を持って一時帰国し、本国で出産することが望ましい。

(2) 出産後の対応

日本で出産した場合は、できるだけ日本にとどまるのが賢明である。

(3) 育児

育児用品はひとつおりヨーロッパ製品が入っているが、種類は限定される。紙おむつ、粉ミルク、離乳食（瓶詰など）は入手が容易であるが、一時的に品薄になる場合もある。

育児上の留意点としては、家のなかで使用人を使う場合、基本的に衛生概念が異なるため使用人に対し十分指導を行なう必要がある。

4-5 手術

(1) 任国で可能な手術

設備、衛生環境面などが十分に整っていないので、当地での手術は不可能である。

緊急の度合いによるが、ヨーロッパまたは本国で手術を受ける方が望ましい。

(2) 手術設備の状況

比較的設備の整っているところとして、ボーキサイト会社（アメリカ、カナダなどの資本）とアルミナイト会社（フランス資本）がある2ヵ所の地方都市（Kamsar、Fria）がある。しかし、コナクリ市内の病院では事故などの簡単な外科手術ができるだけの設備しかない。上記2ヵ所はコナクリより距離もあり、移送はむずかしい。

(3) その他の留意点

輸血を必要とする場合は、その手術の緊急性と重要性を十分考慮のうえ行なうべきである。輸血によるマラリア、肝炎、エイズの感染の危険性がある。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

赴任当初は下痢やのどの病気にかかる人が多い。12～2月にかけては朝夕涼しくなるため、かぜをひくこともある。そのほかにインフルエンザ、咽頭炎、とびひ、ものもらいなどにかかりやすい。また当地にはミアージス（ハエウジ症）があるので、洗濯物には必ずアイロンをかける必要がある。

(2) 風土病・伝染病

肝炎、マラリア、腸チフス、アメーバ赤痢、破傷風、寄生虫症（回虫、さなだ虫）などがあげられる。雨期にはコレラが発生することが多いので要注意である。エイズ患者はWHOの発表によると338人（1992年4月現在）となっている。

(3) 有害動物、病害虫

雨季の前後に大量の蚊の発生がみられる。コナクリでは年間を通して蚊の対策が必要である。市内でも毒ヘビ（コブラ）が確認されている。地方ではさらに、ワニ、カバ、サル、サソリ、住血吸虫などに気をつける。いちばん生活に密接していて危険なのはのら猫、のら犬などの小動物であり、むやみにさわらないこと。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

ミネラルウォーターやいちど沸騰させた水を飲料水として使用すること。ミネラルウォーターは常時確保できる。水道水を利用する時は、まず濾過器を通したあと5分間沸騰させるのが望ましい。地方都市ではミネラルウォーターの入手は困難である。

(2) 濾過器の入手法

市内の市場やスーパーマーケットで簡易式のものが販売されているが、常時在庫があるとは限らない。

(3) その他の留意点

日中の外出は日差しがきついので、帽子を着用するとよい。帰宅後の手洗いの励行と、靴底についていた汚れを持ち込まないようにするとよい。家庭で雇用している使用人に対しても、同様に注意して指導を行なうこと。

5. 教育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

ギニアの教育制度は、小学校、中学校、高等学校と6・4・2年制を敷き、フランスの教科書を用いている科目が多い。公立、私立校ともに学期は9～6月である。コナクリには日本人学校はなく、日本人子弟は、インターナショナルスクール・オブ・コナクリもしくはル・リセ・フランセ・コナクリに編入することになる。

(2) 日本人学校

コナクリにはない。

(3) 現地校、外国人学校

◇ International School of Conakry (アメリカ)

所在地：Matam

特記事項：3～13歳（中学校）まである。高校は計画中である。

◇ Le Lycee Francais Conakry (フランス)

所在地：Kipe

特記事項：幼稚園から高校まである。

(4) 幼稚園

該当情報なし。

5-2 入学手続および授業料

(1) 日本人学校

日本人学校はない。

(2) 現地校、外国人学校

インターナショナルスクール・オブ・コナクリの入学手続は、所定の入学申込書、予防接種証明書に写真を添えて、入学金および年間授業料を支払う。途中編入の場合は、該当学年までの終了証明書も必要となる。1992～93年現在、入学金は2,000ドル、授業料（年額）は中学および小学校、幼稚園が9,500ドル、保育園が3,500ドルである。通学バスはない。学期は10～6月までで、ギニアとアメリカの祝祭日が休校となる。

ル・リセ・フランセ・コナクリの入学手続は、所定の入学申込書、戸籍抄本、予防接種証明書に写真を添えて、入学金および年間授業料を支払う。途中編入の場合は、上校同様、該当学年までの終了証明書が必要となる。1992～93年現在、入学金は2,000フランス・フラン（テスト代金含む）、授業料（年額）は高校が1万6,500フランス・フラン、中学校が1万3,500フランス・フラン、幼稚園、小学校が1万2,000フランス・フランである。通学バスはない。学期は9～6月までで、休校日はギニアの祝祭日に準ずる。

(3) 幼稚園

該当情報はない。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

コナクリ市内に、フランスの協力による図書館（Centre de Documentation

Universitaire, Scientifique et Technique (CEDUST) TEL : 44-46-41) がある。ここには1万2,000冊の科学、技術の専門書と129種の雑誌がある。またビデオ、カセットテープ、16ミリフィルムなどもある。利用方法は、写真2枚とパスポートを提出してこのセンターに登録する。閲覧のみは500ギニア・フラン、貸し出しは2万ギニア・フランの保証金を支払う。貸出期間は2週間までである。このセンターの利用時間は、月～金曜日の9:00～18:00である。

(2) スポーツ施設

国営のグランド、各教育機関が保有しているグランド、プールなどの設備の利用を考えられるが、一般的ではない。簡単に利用できるスポーツ施設は、ホテルの保有しているテニスコート、プールなどである。(10-10 スポーツの項を参照されたい。)

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

よい家庭教師をみつけるのはたいへん困難である。フランコ・ギニア文化センター、フランス校、カナダ大使館やフランス大使館などの掲示板に募集広告を出す方法がある。語学、小・中学生各教科の教師は比較的みつけやすいが、ピアノ教師などは非常にむずかしい。

(2) 通信教育

海外子女教育振興財団を通しての通信教育は可能である。

海外子女教育財団東京本部

〒105 港区虎ノ門1-21-17 虎ノ門NNビル6F

TEL 03-3580-2521

(3) 携行した方がよい家庭用学習教材

現地校に入学する場合、辞書と日本語の教科書以外は当地の方が入手しやすい。日本人学校がないことから、問題集、参考書の種類、程度、量については親の判断による。義務教育中の教科書は、日本大使館経由で文部省より送付される。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

各分野における労働力は余剰気味であり、政府は各機関へ雇用を呼びかけている。外国人のところには、直接仕事を求めてくることも多くみられる。

労働監督所（Inspection Generale du Travail et des Lois Sociales）は労働者の権利と生活を守るために、規約を雇用者に申し渡している。まず最低限の生活保障として、給料は月額7万5,000ギニア・フランを下ってはならない。この額は最低額として割り出された金額であり、一般的にはこの倍額ぐらいは必要とされている。また、年間30日の有給休暇を与え、祭の時などに特別手当を支給することもある。

このほかに、労働者の雇用状態の報告を定期的にしなければならない。まず雇い入れてから15日以内に契約内容について報告し、3ヶ月ごとに定期報告をしなければならない。これを怠ると5万ギニア・フランの違反金を支払わなければならない。再三にわたり注意を無視すると、50万ギニア・フランの違反金の支払い命令が出される。

求人する場合は、職業安定所に求人登録を行なう。求職者も職業安定所に登録しており、双方の希望が一致すれば試験などを行ない採用する。職業安定所としては多くのなかから選べるよう、求職者を多めに紹介してくれる。しかし、最初の使用者で満足がいくことは非常にまれで、地道に指導を行なう必要がある。

業種は運転手、コック、ボーイ、子守、ガードマン、庭師などに分けられる。この業種も細分化ははっきりされていない、兼務も可能である。例えば、ガードマンと庭師、コックやボーイが子守もする。全般的に、当地の使用者にスペシャリストは少ない。

使用者とのトラブルを避けるためには、常に貴重品の管理に気を配ること。使用者の目のつくところに放置したり、目の前で貴重品の出し入れをすることは、絶対に避けること。家族的な雰囲気で働けるのが最良であるが、ときとしては使用者と雇用人の立場を明確に示す必要がある。

6-2 運転手

(1) 雇用

雇用方法は、職業安定所や知人などより紹介してもらう。以前、日本人の運転手をしていたなどの経験者がいれば、そういう人にこしたことはない。ギニア人運転手で英語ができる人はまれで、フランス語もできない人もいるため、採用時にはよく確認する必要がある。

必ず契約書は作成し、文中には試用期間、警告3回で解雇するなどの項目を設け、解雇時の問題を少なくするとよい。契約は1年更新とし、できるだけ短くしておく。一般的に勤務時間は8:00～16:30で、原則的には昼休みはない。給与は、10万～20万ギニア・フランである。

(2) 日常管理

コナクリ市内には車両、人、動物が氾濫し、事故の起こりやすい状況である。安全運転をこころがけることが必要である。狭い道路や、人通りの多いところでのスピードの出し過ぎに注意する。地方都市などへ出張する場合は、2時間ごとに休

憩をとり、無理のないようにすること。

(3) 教育指導

始業点検、定期点検、安全運転、運転マナーなどの指導が大切である。始業点検は、毎日始動前にオイル、冷却水、各部の遊び、ガタつきがないかなどを点検する。定期点検は走行距離によりオイル、フィルターなどの交換、給油、調整などを行なう。安全運転については、スピードの出し過ぎ、見通しの悪いところでの追い越し、カーブでのみ出し走行、自転車、バイクを追い越す時の間隔の確保を、運転マナーについては、特に譲り合いの精神を持つよう指導する。これらが、事故から自分自身を守る最良の手段であることをしっかりと伝えることが必要である。

(4) その他の留意点

路上に事故車両が駐車標識もなく停車していることがある。特に夜間はそうした車両の発見が困難であるためギニア人の目をしても追突事故を起こしている場合がある。夜間走行時や雨天時には、障害物に十分注意する必要がある。

6-3 メイド／サーバント

(1) 仕事の種類と人数

有能なボーイは、いくつかの仕事を行なうことができる。一般的な仕事は、買物、料理、給仕、皿洗い、洗濯、掃除、子守などである。手のかかる乳幼児がいる場合は、ベビーシッターも必要となる。一般的な家庭ではボーイ1人で賄えるが、客の多い家庭では専用のコックを雇うことも必要である。

(2) 雇用

雇用は一般的に知人からの紹介が望ましい。雇用中および解約時に問題を残さないように、契約書は必ず作成しておくとよい。同時に、一般事情の項で述べたように忘れずに届出すること。

休みは土・日曜日の場合と、日曜日だけの場合とがある。来客などで超過勤務をする時などの勤務時間についても、事前に決めておく。多くの場合、使用人は休みより収入を望んでおり、双方の要望を考慮して本人に納得させること。給与は仕事量やレベルを考慮して、10万～15万ギニア・フラン程度となる。

(3) 日常管理

特に衛生観念が欠けており、再三の注意が必要である。例えば、ぞうきんとふきん、トイレ用のバケツと一般のバケツを区別せずに使ってしまうなどである。また、仕事が雑で掃除や食器洗いのすすぎが不十分であったりするので、根気強い指導が必要である。備品や食品の管理も本人に任せきりにするのではなく、双方で記録して管理すること。このようにして、紛失といったトラブルを少なくする配慮が必要である。

6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

(1) 雇用

当地では庭の手入れ、芝刈り、水まきはガードマンによって行なわれており、特別に庭の手入れが必要でない場合は庭師は必要ない。雇用にあたっては、知人に紹介してもらうのもよい。安全上重要であり、確実な選択が必要である。

契約については、運転手、ボーイと同様に契約書をかわし、仕事内容などを明確

にしておくこと。勤務時間は昼と夜の部があり 12 時間勤務で、昼夜のガードマン 2 人を必要とする。昼間はボーイがいるので、夜だけ雇用している例もある。盗難防止に隣近所のガードマンと連帯して、笛を持たせるのもよい。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

地方都市への移動手段には自動車、飛行機がある。一般的に利用されているのは自動車である。Transguineeなどの長距離バス会社が各地方都市を運行しているが在留邦人の間ではあまり利用されておらず、主に自家用車や運転手付きレンタカーによって移動されている。当地の人のあいだで多く利用されているのは、カール（トヨタ・ハイラックス、ニッサン・キャラバンなどを使用したミニバス）や長距離タクシーである。これらは毎日運行されているが、安全性についてはかなり問題がある。また、満席になるまで出発しないため、時間が不規則で不便である。

道路状況はコナクリ～ラベ間は舗装された状態もよい。コナクリ～ボケ間も舗装されているがボッファに入る直前に川があり、ここに橋がないため、フェリーの運航状況によっては時間がかかる場合がある。コナクリからシギリ、カンカン方面はファラナまでは道路が整備された舗装状態もよい。それから先は路面状態が非常に悪い。特に雨季には雨によって道路が削られ、随所に穴があき乗用車では走行が困難である。ゼレコレ方面もファラナ以降は道路状態が悪い。

飛行機は、Guinee Air Service (B.P.1516 TEL 44-17-47, 44-27-61)、Air Guinee (TEL 44-46-14) Guinee Inter Air の3社が主要都市 (Kankan、Siguiri、Boke、Labe、Kissidougou、Nzerekore) を結んでいる。便数は週1～3便ある。料金はほかに比べ非常に高く、コナクリ～カンカン間が6万2,130ギニア・フランである。この間の所要時間は約1時間半である。

市内の交通手段にはタクシー、カール、バスがあるが、日本人が利用しやすいのは、タクシーになる。この場合、貸し切りと乗り合いの2種類がある。市内にはタクシーが多く流れているので手を上げて止める。出勤、帰宅時を除き、幹線道路ではタクシーは拾いやすい。メーターがついていないため、乗車前に交渉が必要となる。料金は、貸し切りで1区間800～1,000ギニア・フランくらい、乗り合いでは200ギニア・フランである。

(2) 自家用車を利用する場合

車検制度が1994年10月から施行されたものの、非常に危険な状態の車も走っているので、事故を避けるためにも自分の車は責任を持って整備しておく必要がある。日本と逆の右側通行なため、十分に慣れる必要がある。特に、右折時に対向車線に入らぬようすること。交差点ではロータリー方式を採用しており、右側からくる車両が優先となる。

夜間は市内の明かりが少なく光度不足で見通しが悪いのと、対向車のライトに幻惑されて運転がしにくいので、できるだけ夜間の運転は避けるのが賢明である。

地方への長距離運転は、交通量が減りスピードを出す機会が増えてくるので、安全運転には十分に気をつける。必ずシートベルトを着用し、スピードは控えめにする。事故車両が路上に止めてあることが往々にしてあるので、見通しの悪いカーブなどではスピードを落とす。村落近辺を走行する時は、家畜が出てくる場合があるので注意する。また検問も増えるため、免許証、身分証明書（パスポート）、車両

に備え付けの証書類は点検のうえ携帯すること。

(3) レンタカーなどを利用する場合

コナクリ市内にはレンタカー会社は次の4社があり、車両のみまたは運転手付きで借りることができる。

◇ AVIS Guinee

所在地：Pres de L'Ambassade des Etats-Unis Face Parc Central du Gouvernement
(B.P.1455)

TEL : 44-40-89 (HOTEL CAMAYENNE 内)

FAX : 44-15-15

Telex : (0995) 22268 GE

◇ Europcar Guinee

所在地：B.P.587 CONAKRY

TEL : 41-15-29 (市内)

FAX : 41-15-29

Telex : 22283 GN

◇ Hertz Guinee

所在地：空港内 (B.P.1366)

TEL : 44-16-93

◇ Guinee Car

所在地：B.P.93, Conakry

TEL : 44-35-75、44-39-26

Telex : 22627 GN

市内から出る場合は、車両管理上から運転手付きとなる。借用者の条件は、運転歴が1年以上で年齢が22歳以上（会社や借りる車両のランクにより違う）の人となっている。

レンタカー料金 (AVIS、Europcar の 1995 年価格) は、次のとおりである。1週間レンタルする場合、走行距離 500 キロメートル以内は追加金は必要ない。

<ニッサン・マーチ>

基本料金 1 日 36,200 ギニア・フラン

距離料金 1 キロメートル 385 ギニア・フラン

1 週 間 357,500 ギニア・フラン

保 険 料 対人1日 3,500 ギニア・フラン

車両 1 日 7,590 ギニア・フラン

<ミツビシ・コルト>

基本料金 1 日 40,600 ギニア・フラン

距離料金 1 キロメートル 430 ギニア・フラン

1 週 間 399,300 ギニア・フラン

保 険 料 対人1日 3,500 ギニア・フラン

車両 1 日 10,200 ギニア・フラン

<ニッサン・サニー>

基本料金	1日 45,200 ギニア・フラン
距離料金	1キロメートル 476 ギニア・フラン
1週間	457,600 ギニア・フラン
保険料	対人1日 3,500 ギニア・フラン
	車両1日 10,200 ギニア・フラン

<ミツビシ・ランサー>

基本料金	1日 48,000 ギニア・フラン
距離料金	1キロメートル 500 ギニア・フラン
1週間	472,000 ギニア・フラン
保険料	対人1日 3,500 ギニア・フラン
	車両1日 10,200 ギニア・フラン

<ニッサン・ブルーバード>

基本料金	1日 60,100 ギニア・フラン
距離料金	1キロメートル 625 ギニア・フラン
1週間	633,100 ギニア・フラン
保険料	対人1日 3,500 ギニア・フラン
	車両1日 12,000 ギニア・フラン

<PICK-UP 4×4 ダブルキャビン>

基本料金	1日 71,200 ギニア・フラン
距離料金	1キロメートル 736 ギニア・フラン
1週間	696,400 ギニア・フラン
保険料	対人1日 3,500 ギニア・フラン
	車両1日 13,750 ギニア・フラン

<PATHFINDER 4×4>

基本料金	1日 74,000 ギニアフラン
距離料金	1キロメートル 755 ギニアフラン
1週間	724,000 ギニアフラン
保険料	対人1日 3,500 ギニアフラン
	車両1日 15,000 ギニアフラン

<パジェロ4×4>

基本料金	1日 83,000 ギニアフラン
距離料金	1キロメートル 810 ギニアフラン
1週間	828,000 ギニアフラン
保険料	対人1日 3,500 ギニアフラン
	車両1日 15,300 ギニアフラン

また、運転手代金は、コナクリ市内が1日 10,000 ギニア・フラン、市外が1日
1万 6,000 ギニア・フランである。

(4) 道路地図

該当情報なし。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

事故発生の場合、コナクリ市内では最寄りの警察に連絡を入れる。地方ではジャンダルメリに連絡をとる。けが人が出ている場合は、通りがかりの車に依頼して病院に運ぶ。電話による救急車の手配は、一部の地域を除き不可能である。事故車両は2次災害を避けるため、よくわかるようにサインを出しておく。警察の到着を待ち、レポートの作成となる。

一般的に、事故を起こした当事者は自己の正当性を主張するため、冷静に対処すること。レポート作成後は、保険会社に処理を任せること。

(2) 救急病院

次のような国立の総合病院があるが、あまりすすめられない。4-2 医療事情の項で紹介したクリニックに連絡を入れること。

Donka

TEL : 44-19-33

Ignace Deen

TEL : 44-20-53 (救急治療)

(3) 盗難

盗難は多く発生している。簡単な工具でとりはずせるものには、盗難防止のカバーをつけるか、自分の車のナンバーを各部品に書いておくとよい。カッターナイフ1本でとりはずすことのできるウインドーガラスやリヤガラスについても同様である。車の場合は本体ごと盗難にあうことはないが、バイクはトラックに乗せて持ち逃げされるケースも多くあり、鍵をかけただけでは安心できない。夜間の駐車はできるだけ明るいところへ止め、見張りを頼む。レストランなどには専属のガードマンがおり、客の車を見張っているので安心できる。ほかの場所にも自称ガードマンが大勢いるので、見張りを頼むのもよい。この場合、少額の見張り賃（300ギニア・フラン程度）を払うこと。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

車両は右側通行になり、交差点では中心より内側を回ることは禁止されているので、大きく回ること。信号機による規制はなく、分岐点はロータリー方式をとっており、なかに入ると向かって右側の車両が優先となることに注意する。

スピード違反の取締りは殆どない。市内は混雑しており、スピードを出すのは容易ではない。市内で特に注意が必要なのは、駐車違反や一方通行違反があることである。標識の表示が不備で、慣れるまではわかりにくい。

制限速度は、標識のないところで市内が60キロメートル、市外が100キロメートルである。ときとしてVIP車を先導したパトカーや白バイがサイレンを鳴らしてくることがあり、この時は速やかに車両を路肩に寄せ、停止させが必要である。

(2) 対処方法

交通違反を警察に指摘されたら、免許証と車に備え付けてある証書類を提示する。

免許証はその時、一時的に没収される。警官によって違反切符を切られると、それを持って最寄りの国庫金出納所 (Toresorerie de la Guinee) に行き、支払いをすませる。この時の支払い証書を警察官に提示すると、免許証を返してもらえる。

7-4 車の修理

(1) 部品

当国では、日本製とフランス製の車両が大半を占めている。各社の代理店も市内にあり、純正部品は入手可能である。純正以外の部品も市場や路上で販売されている。

主な日本車の代理店は、次のとおりである。

<三菱>

Seta-Guinee (Societe d'Equipement Technique)

所在地 : Km 9, Route du Niger (B.P.1012)

TEL : 44-35-50、46-50-60

Telex : 23165 GN

<ニッサン>

Etoile Auto-Guinee

所在地 : Autoroute Km 9, Conakry (B.P. 710)

TEL : 46-53-08、46-54-21

<トヨタ>

SATOYA

所在地 : Kipe Apres le Lycee Francais (B.P.3646)

TEL : 41-36-31

(2) 修理工場

民間工場はコナクリ市内には多くあるが、整備が不十分である。信頼のおけるのは、前述の代理店の整備工場である。

8. 通 信

8-1 電 話

(1) 一般事情

市内でも電話事情はよいとは言い難い。一部の主要官公庁、外国人住宅、政府の要職宅、企業の限られた場所で使用が可能である。現在、電話の通話状態が悪い地域については改修工事が行なわれている。1994年よりカードによるプッシュボン式の公衆電話が普及されつつある。

(2) 国内電話

コナクリⅠとコナクリⅡの一部が通話可能である。その他の地方都市との通話は、まずできない。

(3) 国際電話

国際電話はダイヤル自動通話が可能である。しかし、回線不足で個人持ちの電話ではなかなかつながらない。

郵便・電話・電信局（P T T）は3台の電話機があり、海外への通話ができる。カードによる国際電話を掛ける人が増えてきている。カードでかける方法は00をおした後国番号（日本の場合なら81）そして相手方番号と続く。1枚のカードは最大メモリの150ポイントで16,500ギニア・フランで日本まで3分間弱の通話が可能である。

8-2 電 信

(1) テレックス

テレックスは官公庁、銀行、ホテル、企業に設置されている。ときとしてP T T側の故障で発信や受信ができなくなる時がある。

(2) ファクシミリ

電話と同じ回線を親子電話として使うことができる。日本～ギニア間の場合は、時差の関係で使い分けに大きな支障はない。機械の取り付けは、当地にも日本製品があり容易である。パブリックブース（SOTERGUI）での通信料金は、A4サイズ、1ページが字数に関係なく16,000ギニア・フランである。

(3) 電 報

該当情報なし。

8-3 郵 便

(1) 一般事情

郵便物はすべて私書箱での受け取りとなる。私書箱の開設は、パスポートを提示して2種類ある箱のどちらかを選び1年分の使用料を払う。私書箱の1年間の料金（1993年）は、小型が2万5,000ギニア・フラン、大型が3万ギニア・フランである。郵便物の紛失が多いので、貴重なものは送らない方が賢明である。書状はできるだけ薄くしておくことが必要である。航空便の書状、はがきは750ギニア・フラン、速達になると2,450ギニア・フランである。

書留や小包が届いた時には、その旨の通知が私書箱に届くので、それを持参して引き取る。小包の場合、身分証明書（パスポート）を提示し手数料3,000ギニア・フランを支払い、記帳をすませると税関より荷物が引き渡される。内容物について

は中身の検査をされることがある。専門家の場合、A1 フォームに記載されている免税処置により、税金の支払いは免除される。保管料は、1ヵ月を過ぎると1日50 ギニア・フランの追加料金が加算される。

1993年現在の航空小包料金（ギニア・フラン）は、次のとおりである。

重さ	日本まで	フランスまで
2 キログラム	43,705	19,345
5 キログラム	92,285	23,670
10 キログラム	172,955	54,510

郵便とは別に、急を要する時や貴重品を送る時にはDHLサービスがある。これはたいへん割高にはなるが、当国における唯一確かな送付方法である。

DHL International Guinee

所在地：6E Av. 7E Boulevard, Conakry (B.P.3510)

TEL : 44-48-90, 44-17-66

Telex : 22250 DHL GN

DHLの料金は、次のとおりである。

アビジャン、ダカールまで——基本料金（500 グラムまで）が6万6,500 ギニア・フラン、それを超えると500 グラムごとに1万1,500 ギニア・フラン追加。

アフリカ、ヨーロッパ、アメリカまで——基本料金（500 グラムまで）が6万9,500 ギニア・フラン、それを超えると500 グラムごとに1万4,500 ギニア・フラン追加。

その他（日本まで）——基本料金（500 グラムまで）が7万500 ギニア・フラン、それを超えると500 グラムごとに1万5,500 ギニア・フラン追加。

なお、上記の料金は免税価格である。対象外の人には14.94%の税金が加算される。利用回数が多い場合は、クーポンや一括払いによる割引もある。

(2) 課 稅

郵便小包程度の雑貨、食料品、生活用品に課税されることがある。しかし、新品の電気製品、カメラ、時計などは課税対象となることがある。カメラが30%、テレビが50%となっている。専門家についてはA1 フォームの2国間協定の内容を確認した方がよい。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

当地では日刊紙の発刊はない。数種の新聞が、週刊または月刊紙として発行されている。配達はされず、市内のキオスク、書店、空港、スーパーマーケットで購入できる。代表的な新聞は、次のとおりである。

「Horoya」——週刊（政府新聞）、600ギニア・フラン

「Le Lunx」——週刊（中立）、800ギニア・フラン

「Journaile Officier」——月2回（政府新聞）、1,500ギニア・フラン

「L'Indepenant」——月刊（反政府）、800ギニア・フラン

「La Nation」——月刊（反政府）、500ギニア・フラン

(2) 本邦日刊紙

OCSを通して購読可能である。日本からの便では1週間～10日かかる。ヨーロッパ（ロンドン）からの衛星版は3～5日で届く。

OCS購読課

電話：03-5476-8131

FAX：03-3453-9338

(3) 欧米紙

空港、スーパーマーケット、ホテル、市内のキオスク、フランコ・ギニア文化センターで入手できる。定期購読はむずかしい。

新聞では「Le Monde」、「Liveration」、「Le Figaro」、「L'Equipe」などが、雑誌では「Match」、「Le Point」、「Marche Tropicale」、「Elle」、「Madame」、「Auto」などがある。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

ギニア・ラジオ・テレビ局（RTG）が1局あり、平日は、6:00～10:00、12:00～0:00にMWとFM放送をフランス語と当地語で流している。日曜日は7:00～0:00まで続けて放送している。

(2) ラジオジャパン

ラジオジャパンの日本語放送は、ガボン中継の放送（朝、夕方）とイギリス中継の放送（朝、夜）とが受信できる。

1995年9月現在の受信可能な周波数は、次のとおりである。

6:00～ 7:00 6025キロヘルツ (49mb) イギリス

8:00～ 9:00 15135キロヘルツ (49mb) アサンシオン島

13:00～ 14:00 15400キロヘルツ (49mb) アサンシオン島

16:00～ 17:00 6050キロヘルツ (13mb) ガボン

22:00～ 23:00 9685キロヘルツ (49mb) フレンチガイアナ

以上の5回の放送は、比較的良好な受信状態である。日本から短波ラジオを持参する場合は、13mbから49mbをカバーしたものを選ぶ必要がある。当地でも日本製の短波ラジオが購入できる。

(3) 任国で聴取可能なその他の外国放送

ギニアではフランス語、英語の放送を多く聞くことができる。主な放送は、V O A、Radio France Internationale (RFI)、Africa No.1、Radio Moscou、B B Cなどである。これらの受信状況は非常によい。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

ラジオと同じくR T G 1局のみで、平日は18:00～0:00まで、日曜日は16:00から放送される。

(2) テレビ受信

ギニアのテレビはPAL方式を採用している。したがって、日本でテレビを購入する場合は、ギニアで使用することを店員に告げ買うこと。

当地でもマルチシステムのテレビやビデオが購入できる。価格的にも輸送費などを考慮すると、当地での購入をすすめる。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

娯楽の少ないギニアにあって映画館の数は多い。コナクリ市内だけで10数軒はある。

LE ROGBANE

所在地：Taouyah

HAMDALLAYE

所在地：Hamdallaye

MARCHE MADINA

所在地：Madina

LE RIALTO

所在地：Kaloum

LE VOX

所在地：Kaloum

UNIVERSITE DIXINN

所在地：Dixinn

LE COLEAH

所在地：Coleah

LIBERTE

所在地：Moussoudougou

LE PALACE

所在地：Kaloum

LE TRIOMPHE

所在地：Kaloum

LE MATAM

所在地：Matam

いちばん設備がよいのは Taouyah 地区にある LE ROGBANE 映画館である。1日2回上映される。1回目は 17:00 または 18:00、2回目は 21:00 に始まる。料金は 500~1,000 ギニア・フランで、映画館によって違ってくる。また、フランコ・ギニア文化センターでも週1回映画を上映している。

(2) 劇場

商業演劇は現在行なわれていない。

10-2 出版・書籍

(1) 一般事情

週刊新聞や月刊新聞が発行されている。そのほか、ヨーロッパから輸入された出版物がホテル、空港、フランコ・ギニア文化センター、キオスクなどで販売されている。輸入品であり価格は高く、種類も多くない。

(2) 書店

市内の書店数は少なく、ほとんどが文房具店を兼ねている。主な書店は、次のとおりである。

◇ Burotec

所在地：B.P.3015, Conakry

TEL : 44-23-77

◇ L'Apostrophe

所在地：B.P.1311, Conakry

◇ Mamadou Boye Diallo

所在地：Route du Niger (B.P.3094)

TEL : 44-49-05

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

フランコ・ギニア文化センターのフランス語学校 (DHLの近く、B.P.492、TEL 44-46-73) がある。入学金(1年分)が3万ギニア・フラン、授業料(1学期、3ヶ月分)が8万ギニア・フランで、10月に始まる。

(2) 家庭教師

知人の紹介や、大使館、フランコ・ギニア文化センターに募集広告を出す方法がある。料金の目安は、1時間8,000~1万5,000ギニア・フランである。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

国立博物館 (Musee National Sandervalla) には展示物、庭園がある。展示物は各部族の文化のほか、ギニアの伝統楽器、地理、歴史についてのものである。開館は月～金曜日が9:00～15:00、16:00～18:00、日曜日、祭日は休館である。当地で民芸品を購入した場合、持ち出しに必要な手続はここで行なうことができる。

フランコ・ギニア文化センターには図書室があるほか、美術や民芸展示会、語学教育、音楽会、映画会などが行なわれている。

(2) 日本・任国友好協会などの有無と活動の内容

JICA技術研修修了者によるASSOCIATION DES STAGIAIRES DE LA JICA-GUINEEがあり、1995年6月コナクリ市内に事務所を設置し、交流をはかっている。1974年5月に発足した日本・ギニア友好議員連盟があるが、現在のところ活動していない。

(3) その他の文化活動、文化施設

該当情報なし。

10-5 写真、ビデオ

(1) 写真

韓国人経営のカメラ屋が市内に多くあり、特殊な電池やフィルム(コダックやコニカ)などを扱っている。特殊なアクセサリーは日本で購入すること。価格は36枚撮りで3,000ギニア・フランと少し割高である。現像代は1本1,000ギニア・フラン、焼き付けは最小サイズ1枚が450ギニア・フランである。処理は早く、1時間

以内にできることもある。

(2) ビデオセット

ギニアではPAL方式を採用しているので、日本仕様(NTSC方式)ではギニアのビデオテープは再生できない。日本のビデオテープだけでなく、当地のテレビ番組をみたり外国製のビデオテープを再生する場合は、マルチシステムのテレビ、ビデオの購入をすすめる。

ビデオテープの種類にも家庭用には大きく分けてVHS、ベーターマックス、8ミリの3種類があるが、互換性はない。当地で一般的なのはVHS方式である。生テープもこのタイプしか入手できない。

テレビ、ビデオは、品質にこだわらないのであれば当地で比較的安く入手できるので、こちらでの購入をすすめる。

貸ビデオ店も増えており手軽に借りられる。1本500~2,000ギニア・フランで1日間借りられる。店によっては3万ギニア・フラン程度の保証金が必要なところもある。

(3) ミュージックテープ

市内のいたるところで売られている。また、これを売っている行商人も多く、値段はまちまちである。包装されているものは1,000ギニア・フランで、包装されていないもの(再度こちらでダビングされたもの)は750ギニア・フランぐらいで購入できる。非常に低価格ではあるが、音質もあまりよくはない。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1) 音楽会、コンサート

クラシック音楽などのコンサートはほとんどない。アフリカの人気ミュージシャンによるコンサートや、友好国文化使節団による公演などがときどき人民公会堂で催される。フランコ・ギニア文化センターでも、月に1回の割合で催し物がある。

(2) コーラス、演奏グループ

若者の結成したグループが伝統音楽、歌、踊りを行なっている。いろいろな催しの折に発表される。

(3) ピアノなど

当地に楽器店はなく、クラシック音楽に関する楽器を現地で調達することは不可能である。まれに欧米人の帰国に際して売りに出されることがある。

(4) レコード

レコード販売店は少なく、枚数も多くない。CDも販売され始めているが、枚数はまだまだ少ない。主流はミュージックテープである。

(5) 民族楽器

タムタム(太鼓)、フルート(笛)、バラホン(木琴)、ワサホンバ(カスタネット)、ケロナール(ギター)、コラ(7~12弦の弦楽器)などが伝統的な民族楽器である。現在も結婚式や子供の誕生日などにこれらを使い演奏されている。

(6) その他の楽器

現代的なギター、ドラム、エレクトーンなどを使って祭や祝い事に演奏されることもある。

10-7 手芸、絵画、美術工芸

(1) 手芸

当地では入手不可能である。

(2) 絵画、美術工芸

絵画専門店はないが、文房具店に油絵などの用具が少しあり、入手できる。国立博物館内や土産物売り場などで、民芸・工芸品が製作販売されている。

10-8 趣味

(1) 園芸

独立家屋であれば、家庭菜園を楽しむことができる。野菜類の種もスーパーマーケットで入手できる。マンゴー、バナナ、パパイヤ、かんきつ類の果樹を植えることもできる。観葉植物も多く出回っており、ベランダや室内において楽しむことができる。

(2) 釣り

当地では釣りも可能である。釣り場所としては、コナクリ湾の堤防や、沖にあるカサ島などの島々がある。また、船で沖に出て大物釣りを楽しむこともできる。釣り道具などは当地で調達できないので、日本から持参すること。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

当地には邦人が楽しめる遊戯施設などはないので、本邦より将棋、マージャン、テレビゲーム、カラオケなどの用具を持参するとよい。コナクリ市内のレストラン・バー（レ・ジャルダン・ドゥ・ギネ）ではビリヤードが楽しめる。料金は4ゲームで5,000ギニア・フランである。

(2) レジャーランド、娯楽場、遊園地

該当情報なし。

(3) ディスコ、カラオケ

各ホテルにバーがあり、終日営業している。また、レストランを兼ねたバーも多数ある。ディスコの数も多く、週末は多くの人にぎわう。営業日は店によって異なるが、営業時間はだいたい夜の11時頃から朝の5時頃までである。

主なディスコは、次のとおりである。

BLUE MOON	Coleah	LE CLUB BEMBEYA	Almamya
L'EDEN-PARK	Kipe	L'EDEN-FORCE	Kipe
LE SAFARI	Tombo	LE FUTURA-CLUB	Tombo
VIP NIGHT CLUB	Blecia	METROPOLIS	Minierer
AFRICA No1	Nongo	BON CHIC, BON GENRE	Camayenne
LE BALTIC	Dixinn	LE KING'S CLUB	Taouyah
LE PALACE	Almamya		

10-10 スポーツ

テニスと水泳が主流であり、乾季には用具があればウインドサーフィンなどのマリンスポーツも楽しめる。欧米人が作っているクラブへの参加も可能である。

(1) ゴルフ

ゴルフ設備はない。

(2) テニス

テニスコートは市内に数カ所あり、使用には予約が必要となる。また、会員制のコートもある。

(3) 水泳

ホテルのプールを利用するか、コナクリ沖の島に行って泳ぐ。ホテルのプールについては、次のとおりである。

Grand Hotel Unite —— 1ヶ月 5万ギニア・フラン。

Mariador —— 1回 2,000 ギニア・フラン、1ヶ月 2万ギニア・フラン。

(4) その他のスポーツ、用具、ウエア

柔道、空手、合気道などの武道がある。用具は、スーパーマーケットなどの掲示板に案内を出して求めることができる。小物については日本より持参する方がよい。

(5) スポーツクラブなど

フランコ・ギニア文化センターに、空手、柔道、合気道、アフリカンダンスのクラブがある。週3回で1ヶ月 1万ギニア・フランである。その他小規模なスポーツクラブが各種存在する。

10-11 子供の遊び

当地の子供は、サッカーボールにはほど遠いような粗末なボールをけってじつに楽しそうに遊んでいる。また、廃品を使っておもちゃの車を作ったりしている。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

銀行口座の閉鎖は、開設と同じ窓口で行なう。本邦送金口座は外貨口座なので、残金分は外貨引き出しができる。しかし、当地の銀行では外貨不足のため引き出せないこともあり、前もって口座の残高を少なく調整しておく必要がある。当地に現地手当を送金している場合は、帰国の3ヵ月前に送金を停止してもらうよう手続をするとよい。手持ちの現地通貨は外貨に交換できないので、帰国間近には調整が必要である。

11-2 コンピュータ

該当情報なし。

11-3 美容院・理髪店

美容院はコナクリ市内に数軒あるが、衛生的な問題などで邦人の間ではほとんど利用されていない。利用されている美容院としては、MARIO、Grand Hotel Unite内の美容院などがある。

男性のカットも美容院で行なう。できるだけ散髪の回数を減らし、髪のカットだけにとどめ洗顔とひげ剃りは自分で行なう方がよい。

シャンプー、リンス、整髪料、クリームはヨーロッパ製がスーパー・マーケットで購入できる。日本製品は入手できないので、皮膚の弱い人は本邦より持参すること。夫婦、家族で赴任する場合は、散髪セットを持参するとよい。

12. 観光

12-1 地方旅行上の留意点

地方都市への旅行はほとんど問題はない。コナクリ市内を出る時に検問があるので、車両証明書などの証書類、免許証は携帯すること。途中での燃料の給油は場所によるので、余裕を持った量を準備する必要がある。コナクリを出るとレストランなどの休憩場所が限られてくるため、飲み水とスナック菓子程度のものを持参するとよい。

雨季にはときとして道路が川と化すこともあるので、できるだけこの期間中は長距離旅行は避けた方がよい。また、未舗装道路を走行するような時は、四輪駆動車を使う方が安全である。

記念写真を撮る程度であれば、政府の許可はいらない。トラブルになるようなところ、例えば空港・港湾、大統領官邸、軍・警察関係、コナクリ市内のマーケットなどの写真撮影は避けること。人物を撮影する場合は、あらかじめ許可をとる必要がある。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

観光開発は進んでおらず、観光客もほとんど入国していない状態であるので、本当の自然が満喫できる。

ロス諸島——コナクリ沖にあり、そのなかのカサ島ではきれいな砂浜で日光浴をしたり、釣りや海水浴が楽しめる。市内から船で30分である。

La Plage de Bel-Air ——ギニアでもっとも長い砂浜を持った海水浴場である。ここでバンガローを借りてキャンプをすることも可能である。コナクリから130キロメートルのところ（ボファ）にあり、四輪駆動車が必要である。

花嫁のベールの滝（Le Voile de la Mariee）——コナクリから130キロメートルのキンディアにある、女性的景観の滝である。

動物園（以前はパストール研究所）——キンディアにあり、毒ヘビ、ゴリラ、サルなどがみられる。

フータジャロン山麓——標高が1,400メートルを超え、アフリカでは珍しい針葉樹がある。ここにダバラ、ピタ、ラベなどの標高が1,000メートルを超える高原の町がある。湿度は低く、空気は澄みきっており、保養には最適である。ラベにはホテルが二軒ほどあるが程度はかなり落ちる。新しいホテルの建設も進められているようである。

この他にも、まだまだ自然の美しさに触れられるところがある。

12-3 旅行

(1) 自動車

ガソリンスタンドが民営化され、経営もうまくいっており、以前ほど給油に並ぶ車の列をみることは少なくなっている。地方では燃料不足の事態が考えられるため、給油先を考慮して燃料の予備を持参することが必要なこともある。雨季には道路の状況も変わりやすく危険であるので、避けるのが望ましい。

(2) バス

Sogettragなどのバスが長距離用に運行しているが外国人にはあまり利用されていない。

(3) 鉄道

コナクリ～カンカン間の路線が過去に運行されていたが現在は旅客鉄道として運行されていない。

(4) 航空機

時間的には非常に利用価値が高い乗り物であるが、便数が少ないと、到着地での移動手段がないなど旅行には不向きである。

12-4 旅行代理店

コナクリ市内には、旅行代理店が2社ある。

S.D.V. Guinee

所在地：B.P.2011

TEL：44-14-41、44-47-89

Telex：22 222

Karou Voyages

所在地：Av. de la Republique

TEL：44-20-42、44-32-65／44-50-21（Novotel内）

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

コナクリ市内のホテルは電話、ファックスなどで予約が可能であるが、地方のホテルの予約はむずかしい。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

緊急事態が発生した場合、在ギニア日本大使館を通して、専門家に連絡が入るようになっている。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

最近、強盗など凶悪な事件が増加している。スリ、コソ泥、置き引き、および休暇中の盗難なども多い。市内でも犯罪件数は増えており、危険な場所には近寄らないようにすることが必要である。車両に関しては、簡単にとりはずしができるものは頻繁に盗難にあう。夜間、外出時の駐車には十分な配慮が必要である。

(2) 防犯対策

アパート形式の住居は出入口にガードマンがおり、また入居者同士での防犯管理ができるため、比較的盗難の危険性は少ない。一戸建ての家屋の場合は専属のガードマンや番犬が必要となる。家屋が日本と比べ大きいので、生活空間以外のところの管理がむずかしい。目が行き届かないところには堅牢な施錠を施しておくことが必要である。また、壊れているところは速やかに修理し、外部からの侵入を防ぐこと。雨季には雨音が大きいため外部からの侵入者に気づきにくいので、特に戸締まりは確実にしておくことが必要である。同一地域のガードマン同士で協力体制を作り、笛などで連絡できるようにするとよい。

(3) 被害時の心得

留守中の被害は速やかに警察へ届け出る。家のなかで泥棒に出くわした場合、たいていは相手が逃げ出しが、ときとして向かってくることがある。冷静に対処し、金品を渡すなど抵抗しないこと。

緊急時の電話連絡先は、救急警察が17番、消防署が18番、憲兵隊が44-48-49である。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況

火災はまれに発生する程度で多くない。もっとも大きな被害を与えるのは、暴風雨である。特に雨季に入る5~6月に、季節風を伴った風雨に見舞われる。また雨季の終わりの9~10月にも同様に荒れる。この時には大きな木が倒れたり、電線が切れたりする。雨が多いため、道路が冠水することもある。また大量の濁流によって道路が削られて、道が寸断されることもある。

(2) 防災対策

火災に備えては消火器が必要である。風の被害に対しては、高い枝は切り落とし、危険な老木は事前に切り倒しておく。家庭で準備するものは、ランプ、予備の乾電池、食料、飲料水、生活用水などである。

(3) 被災時の心得

不慣れな任地での災害は不安を大きくかき立てるが、冷静な対処が必要である。家屋に被害があった場合は、大家もしくは不動産会社に連絡を入れること。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

飛行機を降りたら、いちばん奥の道路を通り到着ロビーに入る。入国手続は検疫、入国審査、税関となる。

(2) 入国手続書類

ヨーロッパからの便は機内で入国カードが配布されるので、記入しておく。外貨申請は入国審査後、税関窓口で用紙をもらい記入し申請する。

(3) 入国審査

記入済みの入国カードにパスポートを添えて審査官に提出する。ビザは必要である。

次に、黄熱病の予防接種の証明書（イエローカード）を提示する。コレラは必要ない。

(4) 税関検査

飛行機の手荷物などはほとんど課税されることはない。荷物はかなり厳しくチェックされる。段ボールの場合、抜き打ちで何箱か検査されることがある。金、宝石類については厳しく量を管理しているので持ち込み、持ち出しには注意が必要である。

(5) 空港内の留意点

不審な行動は慎むこと。写真撮影は禁止されているところもあり、注意を要する。人物などの記念写真程度は可能であるが、施設などは禁止されている。親切そうに近づく人は何か下心があるので注意すること。

(6) 空港からの主な交通手段

空港にはタクシーが常駐しており、市内まで 5,000 ギニア・フランぐらいで利用できるが、交渉が必要となる。

(7) その他の留意点

現地通貨への交換は、荷物検査（税関）を受けて出たところの左側の両替所で可能である。

14-2 出国時

(1) 出国時の概要

空港カウンターへの入口で、出国カードをもらい、入ったところで荷物検査（税関）を受ける。この時、持ち出し外貨についても聞かれ、外貨申請額とのチェックが行なわれる。それがすむと、利用航空会社の搭乗手続をすませる。受け取った搭乗券と記入済みの出国カード、パスポートを添えて出国審査を受ける。次に手荷物検査を受け、出発ロビーに入り搭乗を待つ。

(2) 出国手続上の留意点

再入国する場合、ビザの有効期限が出国中に失効しないかどうかを確かめ、必要な場合は前もってビザの再取得を完了しておく。

当地で大量に買物をして、それを持ち出す場合は、証明書が必要となる。証明書は荷物検査の横で発行してくれる。

骨董品を買い、持ち出す場合は、博物館の許可証が必要である。その時、価格の10~25%の税金が徴収される。

14-3 畠国手続

(1) 畠国時に必要な事務手続

住宅賃貸契約の解除、電気代、水道代、電話代などの公共料金の精算、家財道具の発送および処理を行なう。

(2) 車の処分

スーパー・マーケットなどに広告を出して、買い手を探す。売却時には、車両証明書（カルト・グリズ）の名義変更を Centre d'Administration Automobile de Conakry (CADAC Matam TEL 44-45-36) で行なう。費用として 7,000 ギニア・フランの印紙が必要である。

(3) 家財道具の処分

本邦に送るものと当地で処分するものとを分ける。本邦に送る場合は、荷物の量、輸送費、輸送期間を考慮して、航空別送荷物（通称アナカン）、船舶荷物、航空便小包、または郵便小包で発送する。アナカンや船舶荷物には通関に書類などが必要であり、業者に依頼することになる。輸送業者は、次のとおりである。

SMTT

所在地：B.P.4569

Socopao-Guinee

所在地：B.P.3339

TEL：44-42-33

Fax：44-43-13

Telex：22131

当地で処分するものは、早めに知人などと売買契約を結んでおくとよい。スーパー・マーケットや月刊誌「Dyeli」に広告を出す。

(4) 住宅の明け渡し

家主への通知は 3 カ月前が通例である。家屋を損傷した場合は、入居時と比較してその修理代を支払う。家具付き家具の破損についても同様である。

(5) 外貨持出し規制

該当情報なし。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

14-3 (3) 家財道具の処分の項を参照されたい。

(2) 輸入手続

必要な書類は、B/L、インボイス、パッキングリストである。2国間協定で、本人が使用する身の回り品および家庭用品については免税される。特に、高額な新品の電気器具などは免税処置をとる必要がある。この手続には領収証が必要となるので、持参すること。

(3) 家財道具の購入

専門家が輸入家庭用品を購入した場合、通関税は免除される。輸入家具は少ない。

当地産の家具は品質はあまりよくないが多くあり、任期中の使用には十分耐えうる。

15-2 自動車

(1) 一般状況

車両は輸入可能である。また日本車の代理店も多くあるので、当地での購入も考えられる。

(2) 輸入手続

B/L、インボイスを添付して免税手続を行なう。その後、車両を登録してナンバーを取得する。

(3) 任国での購入

新車購入の場合、専門家は免税で購入できる。支払いはクレジット購入が可能であるが、登録にかかる費用は業者（代理店）が負担することもある。専門家が自家用車を購入する場合は、売却証明書を添付のうえ車両証明書の名義変更をCADACで行なう。

車両の参考価格（100%免税価格）は、ファミリーカー（STD）が185万円、ピックアップカー（4×4）が265万円、大型（4×4）が400万円である。なお、値引きは交渉の余地がある。

(4) 自動車登録

所有者の住所、氏名、車両番号、積載量などを登録する。この際に7,000ギニア・フランの印紙が必要である。また、ナンバープレート代金として3万ギニア・フランも必要である。

(5) 免許証取得

ギニアではバイクに関して免許は必要ない。そのほかは日本とほぼ同じである。国際免許の有効期間は1年であるので、その前にギニアの免許証に切り替える必要がある。国際免許証に手数料1万ギニア・フランと写真2枚を添えてCADACに申請すると、ギニアの免許証が交付される。これには有効期限はない。また、自家用車の車検制度は1994年10月から施行されている。

(6) 保険、税金

保険の契約は、対人、対物、車両、すべての保障を賄うと、年間150～300万ギニア・フランの保険料が必要である。無事故の場合は、年間10%の割引がある。

最高 30%までの割引が可能である。契約条件により安くはなる。

コナクリでいちばん大きな保険会社は、次のものである。

Union Guineenne d'Assurances et de Reassurances (UGAR)

所在地 : B.P.179, Conakry

TEL : 44-48-41

Fax : 44-17-11

Telex : 23211 GN

税金は日本の重量税にあたるもの登録時に3~5万ギニア・フラン支払う。これは毎年必要である。

16. 社 交

16-1 風俗習慣

ギニア人同士では平日の夕刻または休日にお互いの家を訪問しあうことがあるが、外国人とのつきあいはあまり密ではない。

イスラム教徒が95%を占めるため、豚肉は食せず、酒もあまり飲まない。イスラム暦の第9月には、ラマダンと呼ばれる断食月がある。この月は30日間にわたり、日の出から日の入りまでは一切の飲食と喫煙が禁止される。喜捨の精神が義務づけられており、貧しい人に喜んでお金やものをさし出すことになっている。また、もうらう場合には断ってはならない。

16-2 パーティでの留意点

宗教の違いから料理などは限られてくることがあるので、前もって聞いておくとよい。16-3 来客時の留意点

ギニア人は陽気で比較的雰囲気にとけ込みやすい。日本人客の多い時などに、日本語だけで話をするのは避けたい。

16-4 訪問時の留意点

特別な留意点はないが、子供のいる家庭などを訪問する時は、土産を持って行くと喜ばれる。できれば分け与えるのが簡単なビスケットやアメなどがよい。

16-5 禁止されている言動

ほとんどの場合、外国人であることで許されているが、イスラム教では左手は不浄の手とされており、左手を使ってものを差し出したり受け取ったりしてはならない。

17. 任国官公序

外務省 (Ministere des Affaires Etrangeres)

所在地 : Face au Port, Ex-Primatuer

TEL : 44-40-52

協力・計画省 (Ministere du Plan et de la Cooperation)

所在地 : Pres Gendarmerie Nationale

漁業・水産増殖省 (Ministere de la Peche et de l'Aquaculture)

所在地 : 6 Avenue pres de la Banque Islamique

TEL : 41-35-23

農林・畜産省 (Ministere de l'Agriculture, de l'Elevage et des Forets)

所在地 : Face Cite du port

TEL : 44-19-70

運輸省 (Ministere des Transport)

所在地 : Cite du port

通商・産業省 (Ministere du Commerce, de l'Industrie et des PME)

所在地 : Pres l'Immeuble CBG

TEL : 44-49-20

郵政・通信省 (Ministere des Postes et Telecommunications)

所在地 : Avenue Tubman

初・中等教育職業訓練省 (Ministere de l'Enseignement Pre-Universitaire et de la Formation Professionnelle : M.E. PU/FP)

所在地 : Face Cathedrale Ste Marie

TEL : 44-19-05

高等教育科学研究省 (Ministere de l'Enseignement Supérieur et de la Recherche Scientifique et de la Culture)

所在地 : Face Cathedrale Ste Marie

TEL : 44-19-05

國務安全保障省 (Ministere de l'Interieur et de la Securite : MIS)

所在地 : Pres Gendarmerie Nationale

TEL : 44-46-25

青年芸術スポーツ省 (Ministere de la Jeunesse, des Arts et des Sports)

所在地 : Avenue du Port

TEL : 44-19-59、44-19-62

法務省 (Ministere de la Justice Garde des Sceaux : MJGS)

所在地 : Face Immeuble la Paternelle

TEL : 44-29-06

大蔵省 (Ministere des Finances : MPF)

所在地 : Face College Boulbinet

TEL : 44-21-62

国防省 (Ministere de la Defense Nationale)

所在地 : Camp A. Samory Toure

TEL : 44-20-01

行政改革公職省 (Ministere de la Reforme Administrative, et de la Fonction Publique)

所在地 : Pres Cathedrale Ste Marie

TEL : 44-29-01

エネルギー・環境省 (Ministere de l'Enrgies et de l'Environnement)

所在地 : Ex-Importex, derriere Immeuble CBG

厚生省 (Ministere de la Sante Publique et des Affaires Sociales : MSPAS)

所在地 : Boulevard du Commerce

TEL : 41-20-32

公共土木省 (Ministere des Travaux Publics)

所在地 : Immeuble des T.P., Bld du Commerce

財務・経済監査省 (Ministere du Controle Economique et Financier)

所在地 : Cite des Nations

都市計画・住宅省 (Ministere de l'Urbanisme et de l'Habitat)

所在地 : Boulevard du Commerce

TEL : 44-38-40

社会・労働・雇用省 (Ministere du Travail, des Affaires Societes et de l'Emploi)

所在地 : Pres Ministere de l'Agriculture, de l'Elevage et des Forets

鉱山・地質省 (Ministere des Mines et de la Geogologie)

所在地 : Immeuble CBG/OFAB, Bld du Commerce B.P.295

TEL : 44-40-24

女性・児童育成省 (Ministere de la Promotion Feminine et de l'Enfance)

所在地 : Corniche-Ouest, Face Terminal Conteneurs PAC

18. 在外日本関係機関など

在ギニア日本大使館

住所 Mayorai, Corniche Sud, Commune de Matam, Conakry (B.P.895)

電話 41-36-07

19. 地方都市

コナクリ以外の地方都市に在住する日本人は、京都大学の靈長類研究グループのメンバーがニンバ山の近くの Bossou に滞在している。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は政府間技術協力のために開発途上国へ赴任するJICA派遣専門家およびJICA役職員等が任国への入国および滞在するために必要とされる情報、とくに生活情報を提供するものです。

専門家およびJICA役職員等は、技術協力協定や要請文書などの国際約束により、税金の免除等一定の義務が免除されるなどの特別の条件が付与されています。

本情報は、これらの条件に基づいたものであることを、あらかじめご了解願います。

-----アジア地域-----

1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア（ジャカルタ、バンドン、ジョグジャカルタ、メダン）
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレーシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ（バンコク、チェンマイ、コンケン）
18. ヴィエトナム
19. モンゴル

-----中近東地域-----

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. イラン
5. ジョルダン
6. クウェイト
7. モロッコ
8. オマーン
9. カタル
10. サウディ・アラビア
11. スーダン
12. シリア
13. テュニジア
14. トルコ（アンカラ、イスタンブール）
15. アラブ首長国連邦（ドバイ、アブダビ、マリイン）
16. イエメン（サド）

-----太平洋地域-----

1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. パラオ
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア
9. トンガ
10. マーシャル諸島

-----欧州地域-----

1. カザフスタン
2. キルギスタン
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン
7. ハンガリー
8. ブルガリア

-----アフリカ地域-----

1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エティオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. ギニア・ビサオ
11. コートジボアール
12. ケニア
13. リベリア
14. マダガスカル（アンタナナリボ、ディエゴ・スアレス）
15. マラウイ
16. モーリシャス
17. モザンビーク
18. ニジェール
19. ナイジェリア
20. ルワンダ
21. サントメ・プリンシペ
22. セネガル
23. セイシェル
24. ソマリア
25. タンザニア（ダルエスサラーム、ザンジバル）
26. トーゴー
27. ザイール
28. ザンビア
29. ジンバブエ
30. スワジランド
31. ボツワナ

-----中南米地域-----

1. アルゼンティン
2. ポリヴィア（ラ・パス、サンタクルス）
3. ブラジル（リオデジャネイロ、ボルトアレグレ、ペレーン）
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンジュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグアイ（アスンシオン、エンカルナシオン）
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダッド・トバゴ
18. ウルグアイ
19. ベネズエラ
20. ニカラグア

「任国情報（ギニア）1996年版」

平成8年3月20日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所

〒162 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03) 3269-2357

編集協力 財団法人 日本国際協力センター
